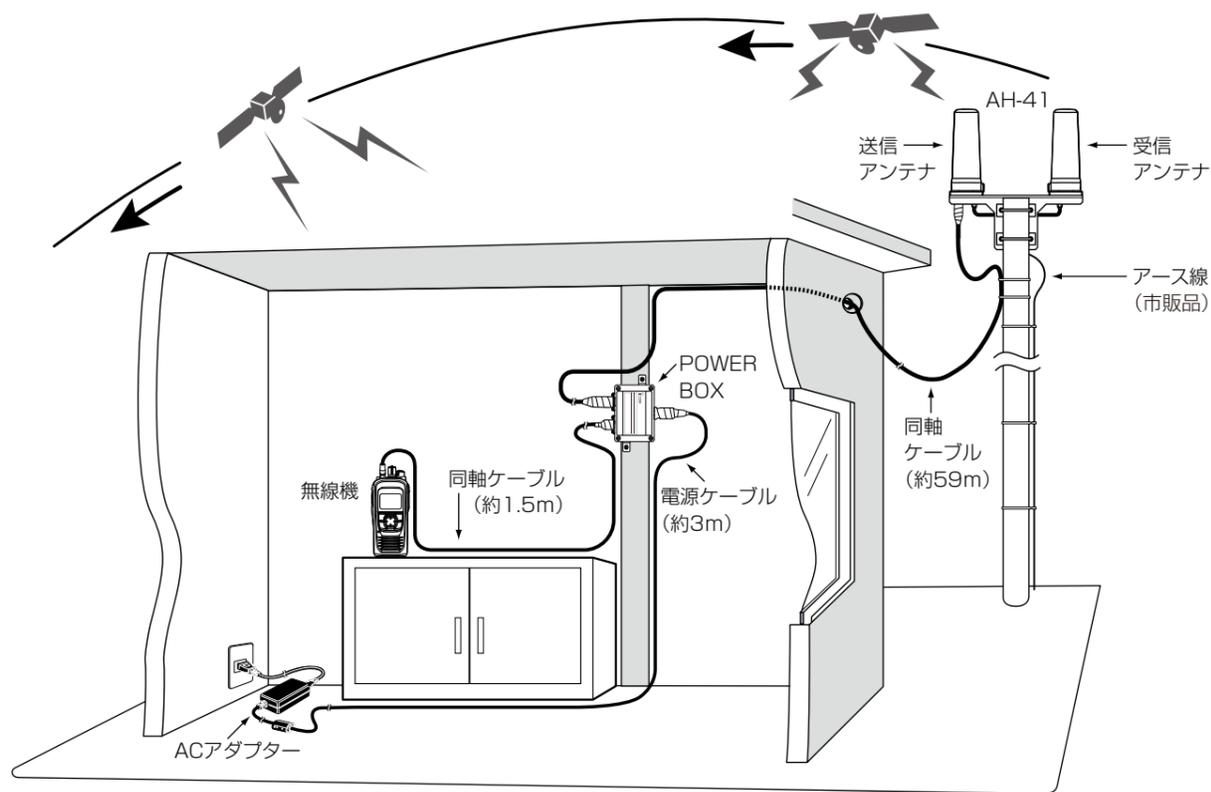


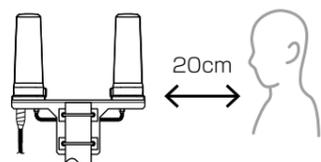
設置例



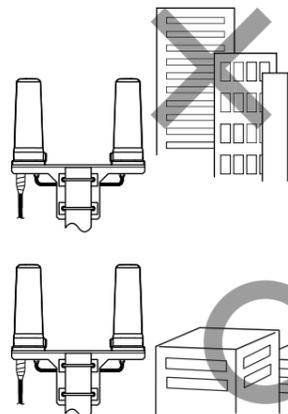
アンテナユニットの設置場所

通信が途切れることがない電波状態のよい場所に設置してください。

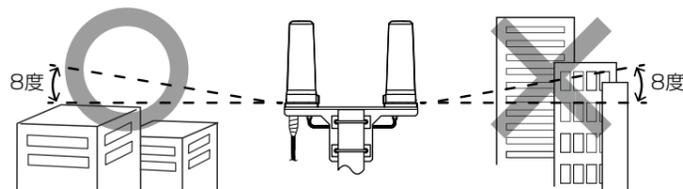
- ◎ 同一軌道を周回する複数の衛星を利用していますが、衛星の位置や障害物の有無によっては、送受信できないことがあります。
- ◎ 信号が遮断されるようなものでアンテナを覆わないでください。
- ◎ 電波障害を受けたりする原因になるため、アンテナユニットから20cm以上はなれて使用できる場所に設置してください。



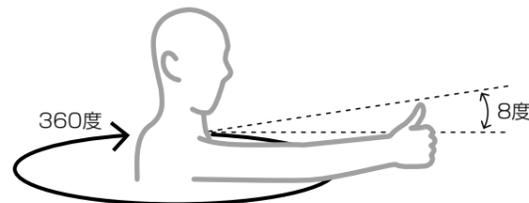
- ◎ 周辺の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。衛星からの信号を良好に受信するため、障害物がない広い空間をおすすめします。



- ◎ 空がよく見える場所に設置してください。アンテナユニットの周囲に仰角約8度を超える範囲に建物や木々など、受信の障害になるものがないことを確認してから設置してください。



- ※ 仰角8度確認の目安として運用場所を確認するときは、下図のように、腕を水平方向に伸ばし、親指を上向きに立てます。腕を伸ばしたまま360度回転して、仰角約8度の範囲に高い建物や木々など、受信の障害になるものが周囲にないことを確認してください。



ご注意

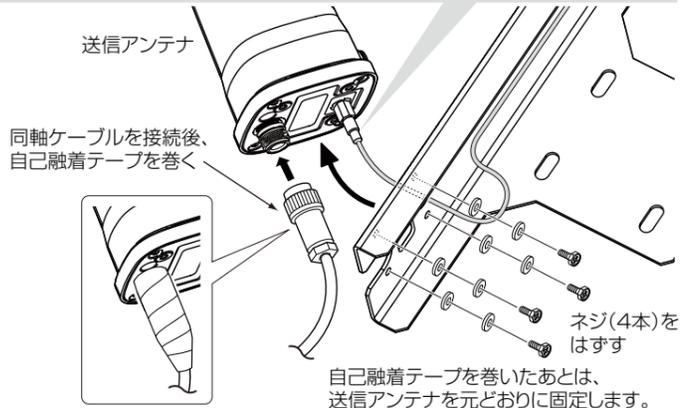
- ◎ ほかのアンテナとは、10m以上はなして設置してください。
- ◎ 避雷針の設置など、直撃雷対策がされている場所に設置してください。
- ◎ アンテナユニットを近距離で複数台設置する場合、電波障害を避けるため、アンテナユニット同士は1.5m以上はなすようにしてください。

送信アンテナと同軸ケーブルの接続

本製品に付属の同軸ケーブル(約59m)を送信アンテナのアンテナコネクタ(N-J型)に接続します。同軸ケーブル接続後は、自己融着テープ(付属品)をアンテナコネクタ部分に巻いて防水処理をしてください。
※市販の粘着ビニールテープを自己融着テープの上から巻くと、耐候性が高まります。

ご注意

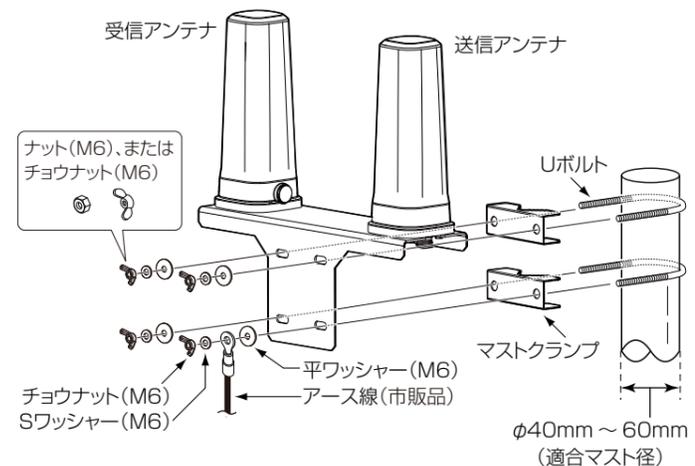
出荷時から接続されている送信アンテナと受信アンテナをつなぐ同軸ケーブルは、取りはずさないでください。コネクタ締結部をゆるめたり、増し締めすると、防塵/防水性能を維持できませんので、市販の自己融着テープを巻くなどの防塵/防水対策が必要になります。



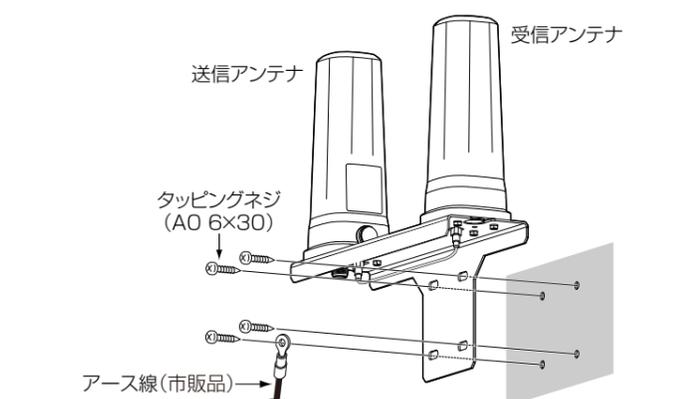
アンテナユニットの設置

アンテナユニットを上空に見える場所に設置してください。
※落雷による破損を軽減するため、下図を参考に、アンテナユニットを固定するネジで、アース線(市販品)を共締めしてください。

■ マストへの取り付け例



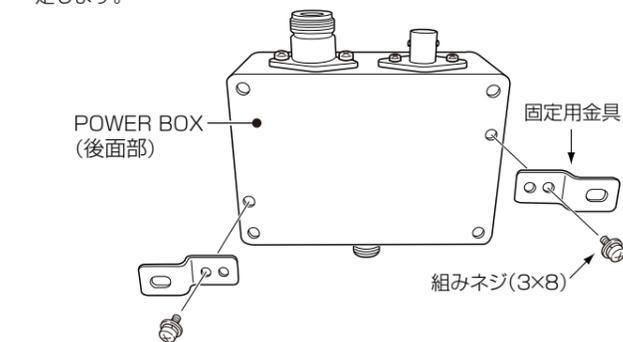
■ 壁面への取り付け例



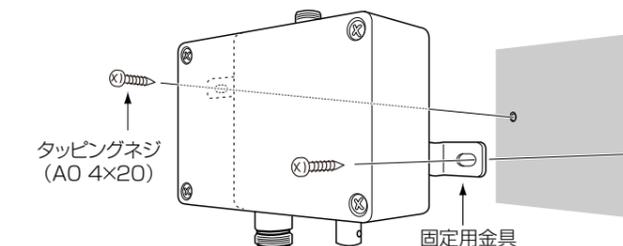
POWER BOXの設置

下図の手順で、POWER BOXを壁面に固定します。

1. 固定用金具の形状や向きに注意して、POWER BOXの後面に組みネジで固定します。



2. 屋内の壁面などに付属のネジで固定します。(例：タッピングネジ)



POWER BOXとの接続

各ケーブルをPOWER BOXに接続後、ホコリや湿気から各コネクタを保護するため、下図のように、自己融着テープ(付属品)を各コネクタの上に巻いてください。

△ご注意

ACアダプターを接続すると、DC28.5Vの電圧がアンテナコネクタ(N-J型)から出力されます。各ケーブルの接続が完了するまで、ACアダプターを接続しないでください。感電やショートの原因となることがあります。

